

0001 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工経験を基に施工計画上の留意点を記述する場合、最も適切な記述はどれか。

- ア．「十分注意して施工した」とだけ記述する。
- イ．現場条件と問題点を示し、それに対応した施工方法・確認方法を具体的に記述する。
- ウ．工事名と工期だけを詳しく記述する。
- エ．問題点と無関係な一般論を多く記述する。

答え・解説 正答：イ

- ア：何に対してどの措置を行ったかが不明確である。
- イ：条件・課題・措置・確認が論理的につながっている。
- ウ：施工管理上の判断や措置が示されていない。
- エ：現場固有の判断が伝わらない。

総合解説：経験記述では、現場条件→課題→具体的措置→確認の流れを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

既存樹木が多い公園改修工事の施工計画で、事前に確認する内容として最も適切なものはどれか。

- ア．樹高だけ確認し根元周辺は調査しない。
- イ．完成後に樹木状態を確認する。
- ウ．既存樹木の位置・根系範囲・健全度と重機動線を確認する。
- エ．すべて撤去する前提で施工計画を作る。

答え・解説 正答：ウ

- ア：根系への施工影響を把握できない。
- イ：施工前の損傷予防にならない。
- ウ：根系損傷や締固めを防ぐ施工計画に反映できる。
- エ：設計図書や保全条件を無視している。

総合解説：既存物の保護は、施工前に位置・状態・施工動線との干渉を把握して計画へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

園路舗装、地下配管、植栽を同一区域で施工する場合、最も適切な施工順序はどれか。

ア．舗装完成後に地下配管を施工する。

イ．各工種が位置・高さを共有せず独立施工する。

ウ．根鉢と配管が干渉したら現場で配管を切断する。

エ．地下配管等の不可視部を先行施工・確認し、その後に舗装を仕上げ、植栽との干渉も調整する。

答え・解説 正答：エ

ア：完成舗装の掘返しが必要となる。

イ：取り合い不良が生じやすい。

ウ：事前調整がなく施設機能を損なう。

エ：後工程で完成部を掘り返す手戻りを防げる。

総合解説：施工順序は不可視部、工種間の取り合い、完成部保護を考慮して決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

休日も一般利用を継続する都市公園の改修工事で、利用者と施工区域を両立させる計画として最も適切なものはどれか。

ア．利用者が自主的に避ける前提とする。

イ．資材置場を毎日空いた場所で決める。

ウ．工事区域を区画し、利用者の迂回動線、資材置場、重機動線を計画する。

エ．工事車両と歩行者を同じ狭い通路へ誘導する。

答え・解説 正答：ウ

ア：第三者立入を管理できない。

イ：避難・通行動線と干渉するおそれがある。

ウ：第三者と工事作業の交錯を予防できる。

エ：接触事故のリスクが高い。

総合解説：供用中工事では施工性と第三者安全を一体で仮設計画に組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

施工計画の記述として、管理方法が最も具体的なものはどれか。

- ア．品質には十分注意するだけ定める。
- イ．不具合発生後に測定方法を考える。
- ウ．測定結果は担当者の記憶で管理する。
- エ．設計図書の基準を確認し、測定項目、時期、方法、記録方法を施工前に定める。

答え・解説 正答：エ

- ア：管理項目や確認方法が示されていない。
- イ：予防的な管理計画にならない。
- ウ：客観的な追跡ができない。
- エ：施工中に客観的な確認ができる計画である。

総合解説：良い施工計画は、管理対象・基準・時期・方法・記録を実行可能な形で示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

植栽工事が盛夏期に重なる場合の施工計画として最も適切なものはどれか。

- ア．根鉢を乾燥させて軽くしてから植える。
- イ．搬入から植付けまでの乾燥時間を短縮し、仮置き養生・灌水・作業時間帯を調整する。
- ウ．最も暑い時間帯に作業を集中する。
- エ．灌水は完成検査後まで行わない。

答え・解説 正答：イ

- ア：根系乾燥により活着不良を招く。
 - イ：植物材料と作業者の暑熱負荷の双方に配慮できる。
 - ウ：植物・作業者双方の負荷が高まる。
 - エ：植付け直後の水分管理が不足する。
- 総合解説：季節・気象条件は材料保護、作業時間、安全、品質管理へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

幅員の狭い既設園路沿いで植栽基盤を掘削する施工計画として最も適切なものはどれか。

ア．作業量だけを基準に最大級の重機を選ぶ。

イ．作業空間、埋設物、運搬経路を確認し、適切な規模の機械と人力を組み合わせる。

ウ．機械が入らなければ既設施設を無断撤去する。

エ．埋設物調査をせず機械掘削する。

答え・解説 正答：イ

ア：狭隘部や周辺施設との干渉を無視している。

イ：能率だけでなく現場制約と安全性を考慮している。

ウ：管理条件や設計を無視している。

エ：埋設物損傷の危険がある。

総合解説：資機材計画では施工能率、作業空間、周辺施設、安全、運搬を総合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

施工中に設計図にない地下構造物が確認された場合、最も適切な対応はどれか。

ア．現場判断だけで地下構造物を破壊する。

イ．事実を記録せず完成後に説明する。

ウ．当初計画のまま無理に施工する。

エ．施工を一旦止め、現況を記録して関係者と協議し、承認された変更を施工計画へ反映する。

答え・解説 正答：エ

ア：権限・設計条件を無視している。

イ：変更経緯を追跡できない。

ウ：安全・品質・工程上の問題を生じる。

エ：事実確認と正式な変更管理ができる。

総合解説：施工条件の相違では、記録・協議・承認・計画更新を順に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

住宅地に隣接する公園工事の施工計画として最も適切なものはどれか。

- ア．苦情発生後だけ環境対策を考える。
- イ．騒音対策としてすべて夜間施工にする。
- ウ．騒音・振動・粉じん発生作業を把握し、機械選定、作業時間、散水、周辺周知を工程に組み込む。
- エ．散水水を未処理で場外へ流す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：予防的な管理ができない。
 - イ：生活環境への影響を増やすおそれがある。
 - ウ：環境対策を事後対応でなく施工計画に統合している。
 - エ：濁水問題を生じる。
- 総合解説：周辺環境への影響は工法、設備、時間、工程に事前反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

施工計画を実施する際の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．計画と実績を記録で比較し、差異や不具合があれば原因を分析して計画を見直す。
- イ．計画書提出後は一切見直さない。
- ウ．結果にかかわらず記録を残さない。
- エ．差異を隠して当初計画どおりと報告する。

答え・解説 正答：ア

- ア：計画を実際の管理に機能させる方法である。
 - イ：現場変化に対応できない。
 - ウ：差異の分析ができない。
 - エ：適正な施工管理に反する。
- 総合解説：施工計画は作成・実施・確認・改善まで含めて運用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

文化財的価値のある既存樹木を保全しつつ供用中園路を改修する場合、最も適切な計画はどれか。
ア．根元直近まで大型重機を進入させる。
イ．樹木保全だけを優先して利用者を工事区域内へ通す。
ウ．利用者動線確保のため根系保護範囲を無視する。
エ．根系保護範囲と利用者迂回を定め、小型機械や人力を組み合わせ、区域・工程を分割する。

答え・解説 正答：エ

ア：根系損傷のリスクが高い。
イ：第三者安全を損なう。
ウ：保全条件を満たさない。
エ：樹木保全、第三者安全、施工性を同時に調整している。
総合解説：実地の計画では複数の制約条件を統合して最適な施工方法を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

施工経験記述として、施工管理上の判断が最も明確なものはどれか。
ア．「降雨後に植穴の滞水を確認したため、暗渠排水を追加し、植付け前に排水状況を再確認した。」
イ．「排水に気を付けた。」
ウ．「現場ではいろいろな問題があったが頑張った。」
エ．「施工計画書を作成したので品質は問題なかった。」

答え・解説 正答：ア

ア：問題、措置、確認が具体的に結び付いている。
イ：状況・措置・確認が不明である。
ウ：技術的判断が示されていない。
エ：実施措置と結果確認が示されていない。
総合解説：抽象語を避け、現場条件、判断、具体的措置、確認結果を簡潔に結ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理上の留意点を記述する場合、最も適切な構成はどれか。
ア．「品質を良くした」と結果だけを書く。
イ．材料名だけを列挙する。
ウ．要求品質・管理項目を示し、確認方法と不適合時の対応を具体的に記述する。
エ．工期短縮策だけを詳しく書く。

答え・解説 正答：ウ

ア：管理方法が分からない。
イ：品質管理の行為が示されない。
ウ：品質目標、管理、判定、対応が明確である。
エ：品質管理の設問に対応していない。
総合解説：品質記述では、何をどの基準で確認し、異常時にどう処置したかを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

高木の品質管理に関する記述として最も適切なものはどれか。
ア．樹高だけ確認し根鉢は植付け後に見る。
イ．搬入時に樹種、規格、樹形、根鉢、損傷・病虫害の有無を確認する。
ウ．数量が合えば樹種違いも使用する。
エ．損傷樹木を目立たない位置に植える。

答え・解説 正答：イ

ア：活着に重要な根鉢を事前確認できない。
イ：植付け前に設計図書との適合と健全性を確認している。
ウ：設計図書と不一致である。
エ：不適合を隠す対応である。
総合解説：植栽品質は材料受入れの段階から確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理記録を残す主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．担当者の記憶だけで管理するため。
- イ．不適合値を後から削除するため。
- ウ．測定・試験結果と施工状況を追跡し、適合確認や異常時の原因分析に用いる。
- エ．写真枚数だけを数えるため。

答え・解説 正答：ウ

ア：客観的な追跡ができない。

イ：記録の信頼性を損なう。

ウ：客観的な品質証明と追跡が可能になる。

エ：品質記録の目的を限定しすぎている。

総合解説：測定・試験結果は施工と並行して記録し、適合確認と改善へ使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

植付け前の植栽基盤で著しい締固めと排水不良が確認された。最も適切な対応はどれか。

- ア．枯れた場合だけ後で対策する。
- イ．支柱を強くして排水不良を補う。
- ウ．表面だけ整地して根域は確認しない。
- エ．原因範囲を確認し、耕起・土壌改良・排水改善後に状態を再確認して植え付ける。

答え・解説 正答：エ

ア：予防的な品質管理にならない。

イ：支柱は排水を改善しない。

ウ：根域の問題が残る。

エ：不適合な生育基盤を施工前に是正している。

総合解説：植栽品質は材料だけでなく根域の通気・排水・土壌状態も管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

施設基礎のコンクリート施工で品質管理として最も適切なものはどれか。

- ア．外観が良ければ試験や養生は不要とする。
- イ．所定の受入試験と施工状況を確認し、打込み・締固め・養生を適切に行い記録する。
- ウ．打込み後すぐ乾燥させる。
- エ．不適合試験結果を記録しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：必要な品質確認を省略している。
 - イ：材料、施工、養生を一連で管理している。
 - ウ：ひび割れ等を生じる可能性がある。
 - エ：不適合処理ができない。
- 総合解説：コンクリート品質は受入れから養生・記録まで一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

規格外の舗装材料が搬入された場合、最も適切な品質管理はどれか。

- ア．適合品と混ぜて使用する。
- イ．表示せず資材置場へ戻す。
- ウ．適合品と混在しないよう識別・隔離し、処置を決定して記録する。
- エ．口頭連絡だけで記録しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：要求品質を満たせない。
 - イ：誤使用の可能性が残る。
 - ウ：不適合品の誤使用を防げる。
 - エ：処置の追跡性が不足する。
- 総合解説：不適合材料は識別、隔離、処置、再確認、記録まで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

舗装の仕上がり不陸を早期に防ぐ品質管理として最も適切なものはどれか。

- ア．完成後だけ一度測定する。
- イ．勾配は目視だけで判断する。
- ウ．水たまりがあっても色が良ければ合格とする。
- エ．下地・路盤・仕上げ各段階で高さや勾配を確認し、異常を次工程前には正する。

答え・解説 正答：エ

- ア：中間工程の不良を早期発見できない。
イ：客観的な出来形確認にならない。
ウ：排水機能を満たしていない。
エ：工程内で不良を検出し手戻りを抑えられる。
総合解説：後から見えない工程や次工程へ影響する項目は途中で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

品質不良を手直した後の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．手直したので再測定しない。
- イ．原因を確認せず同じ方法で再施工する。
- ウ．再施工後に同じ管理項目を再測定し、規格への適合を確認して記録する。
- エ．記録上の測定値だけ書き換える。

答え・解説 正答：ウ

- ア：適合したか分からない。
イ：再発の可能性がある。
ウ：是正結果を客観的に確認している。
エ：実際の不適合を是正していない。
総合解説：是正では原因、処置、再確認、記録まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

新植樹木の一部で活着不良が生じた。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．材料状態、根鉢損傷、植付け深さ、土壌排水、灌水履歴、気象を発生位置と照合する。
- イ．枯れた以上すべて樹種が原因とする。
- ウ．原因を調べず全樹木を交換する。
- エ．施工記録を破棄する。

答え・解説 正答：ア

ア：複数要因を記録と症状分布から絞り込める。

イ：施工・土壌・水分要因を無視している。

ウ：再発防止につながらない。

エ：原因追跡ができなくなる。

総合解説：複合的な品質不良は材料、施工、環境、管理記録を突き合わせて分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

広場舗装が規格寸法内であるが複数箇所に水たまりが生じている。最も適切な判断はどれか。

- ア．規格寸法内なら機能不良でも合格とする。
- イ．利用者が避ければよいとして記録しない。
- ウ．原因確認なしで全舗装を撤去する。
- エ．排水機能や局部不陸を確認し、設計要求を満たさない箇所は原因調査して是正する。

答え・解説 正答：エ

ア：要求機能を満たさない可能性がある。

イ：品質問題を放置している。

ウ：合理的な範囲特定がない。

エ：数値だけでなく目的物の機能まで評価している。

総合解説：品質判定は強度、出来形、外観、使用機能を総合して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

安全管理上の留意点を記述する際、最も適切なものはどれか。

- ア．「安全第一で作業した」とだけ記述する。
- イ．事故が起きなかったことだけを書く。
- ウ．具体的な危険源を示し、その危険に対応する立入管理・設備・作業手順を記述する。
- エ．現場と無関係な法令名だけを列挙する。

答え・解説 正答：ウ

ア：具体的な危険と措置が分らない。

イ：安全管理行為を示していない。

ウ：危険源と対策の因果関係が明確である。

エ：現場での具体的な管理能力を示せない。

総合解説：安全記述は作業条件→危険源→予防措置→確認方法の順で具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

供用中公園での安全管理記述として最も適切なものはどれか。

- ア．注意看板を一枚置くだけにした。
- イ．工事車両と歩行者を同じ出入口に自由に通した。
- ウ．工事区域を仮囲いで明確化し、利用者の迂回路を確保し、重機出入口には誘導員を配置した。
- エ．閉園できないため工事区域を区画しなかった。

答え・解説 正答：ウ

ア：物理的分離や誘導が不足する。

イ：接触リスクが高い。

ウ：第三者と工事作業を具体的に分離している。

エ：供用中こそ立入管理が必要である。

総合解説：第三者災害防止は区画、案内、迂回、車両誘導、監視を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

高木剪定を高所作業車で行う場合の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア．作業床から身を乗り出して作業する。
- イ．機械の設置地盤・作業範囲を確認し、必要な墜落制止用器具を使用し、下方を立入禁止とする。
- ウ．落下枝の下で他作業を続ける。
- エ．地盤の支持状態を確認せず設置する。

答え・解説 正答：イ

ア：墜落リスクを高める。

イ：墜落・転倒・落下物の危険を同時に管理している。

ウ：落下物災害の危険がある。

エ：機械転倒の危険がある。

総合解説：高所作業は作業者の墜落、機械安定、落下物、立入管理を一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

クレーンで大型石材を据え付ける場合の安全管理記述として最も適切なものはどれか。

- ア．吊荷重量と玉掛け方法を確認し、合図者を定め、吊荷下を立入禁止として試し吊り後に据え付ける。
- イ．吊荷重量を見ただけで判断する。
- ウ．作業員を吊荷下に配置して位置を合わせる。
- エ．複数人がそれぞれ自由に合図する。

答え・解説 正答：ア

ア：揚重計画、合図、立入管理が具体的である。

イ：過負荷や用具選定誤りの危険がある。

ウ：吊荷落下時に重大災害となる。

エ：合図の混乱を招く。

総合解説：揚重では荷重、機械能力、玉掛け、合図、作業半径、立入禁止を事前整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

既設配管の近くで深い植穴を掘削する場合の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア．図面だけで判断し現地確認せず機械掘削する。
- イ．掘削土を掘削縁へ大量に積み上げる。
- ウ．作業員を巡回範囲内へ常時配置する。
- エ．埋設物位置を確認し、掘削面の安定や土止めを検討し、重機と作業員の接触を防止する。

答え・解説 正答：エ

- ア：埋設物損傷の危険がある。
 - イ：上載荷重で崩壊リスクを高める。
 - ウ：接触災害の危険が高い。
 - エ：埋設物・崩壊・重機接触をまとめて管理している。
- 総合解説：掘削安全では地山、土止め、埋設物、重機、排水、立入管理を総合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

毎日の安全管理として最も適切な記述はどれか。

- ア．前日と同じ作業なら朝礼・点検を省略する。
- イ．危険箇所は管理者だけが把握する。
- ウ．異常があっても工程優先で使用する。
- エ．作業開始前に当日の作業内容・危険箇所・役割を共有し、機械・仮設物の異常を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：天候や設備状態は変化する。
 - イ：作業員への共有が必要である。
 - ウ：危険を是正してから作業すべきである。
 - エ：日々変化する現場条件を始業前に確認している。
- 総合解説：始業前に危険予知、役割確認、設備点検を行い、作業開始条件を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

歩行者通行量の多い園路沿いで伐採作業を行う。最も適切な安全計画はどれか。

ア．注意看板だけで歩行者を伐倒範囲内へ通す。

イ．通行量の最も多い時間帯に作業する。

ウ．伐倒方向を切り始めてから決める。

エ．作業時間帯を調整し、伐倒方向と退避範囲を設定し、区域を物理的に閉鎖して誘導員を配置する。

答え・解説 正答：エ

ア：重大な倒木・落下物災害につながる。

イ：第三者リスクを増大させる。

ウ：事前の作業計画が不足している。

エ：危険区域への第三者立入りを防ぎ、作業条件も調整している。

総合解説：高リスク作業では危険除去・隔離を優先し、時間・区域・作業方法を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

河川沿いの公園で大雨が予想される日の安全管理として最も適切なものはどれか。

ア．雨が降り始めるまで準備しない。

イ．気象・水位情報を確認し、作業中止基準と退避経路を共有し、資機材流出防止と再開時点検まで計画する。

ウ．中止基準を設けず責任者の感覚だけで判断する。

エ．雨が止めば点検せず直ちに再開する。

答え・解説 正答：イ

ア：退避や資機材対策が遅れる。

イ：予防、退避、二次災害防止、再開確認を一連で計画している。

ウ：判断が遅れる可能性がある。

エ：地盤・仮設物の異常確認が必要である。

総合解説：安全記述は平常時だけでなく異常気象時の中止、退避、復旧、再開確認まで具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程が遅延した場合の最初の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．実績と計画を比較して遅延作業と原因を特定し、後続工程への影響を確認する。
- イ．全作業員に一律残業を指示する。
- ウ．工程表を書き換えて遅延をなくす。
- エ．最終期限まで様子を見る。

答え・解説 正答：ア

ア：原因と影響を把握してから回復策を選べる。

イ：原因や重点作業を確認していない。

ウ：実際の進捗は改善しない。

エ：回復余地を失う。

総合解説：遅延対応は実績把握→原因分析→影響評価→回復策→再工程化の順で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

複数作業に遅れがある場合、工期への影響を最優先で確認すべき作業はどれか。

- ア．十分な余裕がある非クリティカル作業。
- イ．クリティカルパス上の遅延作業。
- ウ．既に完了した作業。
- エ．工程表にない雑作業だけ。

答え・解説 正答：イ

ア：まず工期に直結する作業を確認する。

イ：その遅れが全体工期に直結しやすい。

ウ：遅延回復の対象ではない。

エ：全体工期への影響を評価できない。

総合解説：工程回復では作業ごとの余裕と後続関係を確認し、工期に直結する経路を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

連続降雨で土工が3日遅れた場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．地盤状態を無視して土工を続ける。
- イ．工程表を確認せず全作業を停止する。
- ウ．遅延日数だけ自動的に工期末を延長する。
- エ．土工の後続関係と余裕を確認し、雨天でも可能な作業への振替や施工順序変更を検討する。

答え・解説 正答：エ

- ア：品質・安全を損なう。
 - イ：実施可能作業を検討していない。
 - ウ：回復可能性や契約条件を確認していない。
 - エ：安全・品質を守りつつ待機ロスを減らせる。
- 総合解説：気象遅延では作業振替、順序変更、資源再配置で全体影響を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

主要材料の納入が予定より遅れることが判明した。適切な工程対応はどれか。

- ア．材料到着まで全作業員を待機させる。
- イ．未承認の代替材料を独断で使う。
- ウ．納入時期を確認し、その材料を使わない先行可能作業へ資源を振り替え、後続工程を再調整する。
- エ．納入遅延を工程表に反映しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：他作業が可能なら非効率である。
 - イ：品質・契約上の問題がある。
 - ウ：待機ロスを減らしながら工期影響を抑える。
 - エ：実態との乖離が生じる。
- 総合解説：資材遅延時は先行可能作業、代替可否、資源、後続工程を再調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

唯一のバックホウが故障し掘削作業が停止した。最も適切な対応はどれか。

- ア．修理・代替機調達の時間を把握し、工期影響を確認して人員・他作業を再配置する。
- イ．安全確認せず故障機を無理に運転する。
- ウ．全員を掘削箇所に待機させる。
- エ．故障を工程記録に残さない。

答え・解説 正答：ア

ア：復旧時間と工程影響を同時評価している。

イ：事故・二次故障の危険がある。

ウ：生産性が低下する。

エ：原因分析や再発防止に使えない。

総合解説：機械故障では安全な復旧、代替手段、他作業への振替、工程再評価を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

急な欠員で予定人員を確保できず工程遅延が見込まれる。最も適切な対応はどれか。

- ア．資格のない者を有資格作業へ配置する。
- イ．休憩を全てなくす。
- ウ．必要資格と安全条件を維持したうえで応援要員、作業順序、作業量を再調整する。
- エ．人数不足を隠して当初工程のままとする。

答え・解説 正答：ウ

ア：必要資格を満たさない。

イ：疲労による災害リスクが高まる。

ウ：安全な実施条件を守りつつ工程回復を図っている。

エ：早期調整ができない。

総合解説：工程回復は法令・品質・安全を満たす範囲で人員・時間・方法を最適化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

施工途中で施設配置の設計変更が指示された。工程管理として最も適切なものはどれか。

ア．変更図を確認せず口頭だけで施工する。

イ．当初工程表を一切変更しない。

ウ．既施工部を無条件に全撤去する。

エ．変更範囲、追加作業、材料調達、既施工部への影響を洗い出し、承認内容に基づき工程を再設定する。

答え・解説 正答：エ

ア：誤施工や手戻りの原因となる。

イ：実態と工程が合わない。

ウ：必要範囲を超えた手戻りとなる。

エ：変更内容を作業単位へ落としとして工程影響を評価している。

総合解説：設計変更では数量、調達、作業順序、既施工部への影響を確認して再工程化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

非クリティカル作業に5日の全余裕があり2日の遅れが発生した場合、最も適切な判断はどれか。

ア．2日の遅れで必ず工期も2日延びる。

イ．後続関係を確認し、余裕内で吸収できるならクリティカル作業への資源影響を避けて管理する。

ウ．余裕があるので進捗確認をやめる。

エ．クリティカル作業から人員を無条件に移す。

答え・解説 正答：イ

ア：余裕時間を考慮していない。

イ：全体工期への影響を抑えつつ余裕を活用している。

ウ：余裕消費を監視する必要がある。

エ：全体工期を悪化させる可能性がある。

総合解説：フロートは工程調整余地だが、消費状況と後続影響を監視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

クリティカル作業を短縮するため増員を検討する場合、最も適切な判断はどれか。

ア．人数を倍にすれば必ず日数が半分になる。

イ．増員で実際に短縮できるか、作業空間、安全、品質、費用への影響を確認して決定する。

ウ．安全設備を省略して短縮する。

エ．品質検査を省略して短縮する。

答え・解説 正答：イ

ア：作業空間や機械能力の制約がある。

イ：工期効果と副作用を比較している。

ウ：許容できない回復策である。

エ：品質確保を損なう。

総合解説：工程短縮策は効果だけでなく安全・品質・コストへの影響を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

舗装業者と植栽業者の作業が同一区域で競合している。最も適切な対応はどれか。

ア．両社に同時施工を命じる。

イ．一方だけに責任を負わせ調整しない。

ウ．区域、時間帯、先行後続関係を整理し、責任者間で共通工程を再調整する。

エ．工程表を各社で共有しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：安全・能率が低下する。

イ：競合原因を解決できない。

ウ：工種間の干渉を解消できる。

エ：競合を予防できない。

総合解説：複数業者の工程は共通マイルストーン、区域、引渡条件を明確にして調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

工事全体の出来高は80%だが、残る20%がすべてクリティカル作業である。最も適切な判断はどれか。

- ア．80%完了なら工程遅延は起こらないと判断する。
- イ．完了済み作業をさらに短縮する。
- ウ．残作業の順序関係を確認しない。
- エ．出来高率だけで安心せず、残作業の所要日数とクリティカルパスを確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：残るクリティカル作業を無視している。

イ：残工期へ影響しない。

ウ：完成見込みを評価できない。

エ：残作業の内容で完成見込みを評価している。

総合解説：工程評価は数量ベースの進捗率だけでなく、残作業の経路・期間・制約を見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

降雨遅延と材料納入遅延が同時発生し植栽工がクリティカルになった。最も適切な回復策はどれか。

- ア．原因ごとに別工程表を作り全体統合しない。
- イ．安全・品質を無視して作業時間だけ延長する。
- ウ．気象回復後の作業量、材料到着日、必要人員を再計算し、先行可能作業と増強案を比較して再工程化する。
- エ．材料到着前に未承認材料を使う。

答え・解説 正答：ウ

ア：全体工期を評価できない。

イ：許容できない回復策である。

ウ：複数制約を統合して実行可能な回復計画を作っている。

エ：品質・契約条件を損なう。

総合解説：複合遅延では原因ごとの制約を一つの工程へ統合し回復策を比較する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

夜間施工を追加すれば工期回復できる見込みである。採用判断として最も適切なものはどれか。

ア．工期回復になるなら無条件で夜間施工する。

イ．夜間は品質検査を省略する。

ウ．周辺への影響は完成後に説明する。

エ．照明、騒音、作業者疲労、近隣条件、品質確認体制を評価し、条件を満たす場合のみ採用する。

答え・解説 正答：エ

ア：安全・環境・労務上の問題があり得る。

イ：品質保証が低下する。

ウ：事前調整が必要な場合がある。

エ：工期だけでなく安全・品質・環境を評価している。

総合解説：回復策は工期効果と品質、安全、環境、労務上の実行可能性で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

回復工程を作成した後の管理として最も適切なものはどれか。

ア．回復工程作成時点で進捗確認を終える。

イ．新たな重点作業と中間目標を設定し、短い周期で実績を確認して再遅延を早期検出する。

ウ．当初工程との比較を一切しない。

エ．遅延再発でも完成日まで対策しない。

答え・解説 正答：イ

ア：再遅延を発見できない。

イ：回復計画の実効性を継続監視できる。

ウ：回復状況を評価しにくい。

エ：早期対応の機会を失う。

総合解説：再工程化後は重点作業、マイルストーン、確認頻度を明確にして追跡する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

施工中に品質不良を発見した場合の基本対応として最も適切なものはどれか。

- ア．不良を隠して次工程へ進む。
- イ．原因を調べず全工事をやり直す。
- ウ．不良範囲を特定し、次工程への進行や誤使用を止め、原因と処置方法を確認する。
- エ．測定記録を削除する。

答え・解説 正答：ウ

ア：後からは正困難になる。

イ：過剰な処置となる可能性がある。

ウ：不適合の拡大を防ぎ、原因分析へつなげられる。

エ：品質管理の信頼性を損なう。

総合解説：品質不良対応は進行停止、範囲確認、原因分析、是正、再確認、記録の順で進める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

設計と異なる樹種が一部植え付けられた場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．似た樹形ならそのまま完成扱いとする。
- イ．誤植栽範囲を特定し、設計図書と照合して処置を協議し、必要な交換後に再確認する。
- ウ．樹名札だけ正しい名称へ変える。
- エ．目立たない場所へ移植して記録しない。

答え・解説 正答：イ

ア：設計図書と不一致である。

イ：設計要求への適合を正式に回復できる。

ウ：実物の不適合を是正していない。

エ：不適合を隠している。

総合解説：材料・樹種の不適合は範囲を把握し、承認された処置後に再確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

園路幅が規格値を外れていたため是正した。次に行うべき管理はどれか。

ア．是正箇所を再測定し、規格値への適合を記録する。

イ．作業員の申告だけで合格とする。

ウ．最初の不適合値を削除する。

エ．別の適合箇所だけを測定する。

答え・解説 正答：ア

ア：是正結果を客観的に確認できる。

イ：客観的な確認がない。

ウ：履歴を残す必要がある。

エ：是正箇所そのものの確認にならない。

総合解説：是正作業の完了ではなく、適合結果の再確認までが品質管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

搬入した大径木の根鉢が大きく崩れている。最も適切な対応はどれか。

ア．土を追加して外見だけ整えて植える。

イ．植付けを保留し、根系損傷と材料品質を確認して使用可否や交換を判断する。

ウ．軽くなったので運搬に有利として使用する。

エ．記録せず灌水量だけ増やす。

答え・解説 正答：イ

ア：根系損傷を評価していない。

イ：活着に重大な影響を与える損傷を施工前に評価している。

ウ：品質低下を無視している。

エ：原因に対応した処置ではない。

総合解説：植栽材料の根系・根鉢損傷は施工前に使用可否を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

完成直後の園路舗装に局部沈下が発生した。原因調査として最も適切なものはどれか。

ア．表面色だけで原因を決める。

イ．沈下位置と施工記録を照合し、路床・路盤の締固め、材料、含水状態、埋戻し部を確認する。

ウ．原因確認せず全区間を再舗装する。

エ．完成後なので下部構造は原因候補から除く。

答え・解説 正答：イ

ア：沈下原因を評価できない。

イ：下部構造と施工履歴から原因を絞り込める。

ウ：再発の可能性がある。

エ：沈下は路床・路盤に起因することがある。

総合解説：不良発生位置と工程・材料・測定記録を対応させて原因を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

広場の設計高さは規格内だが降雨後に水たまりが残る。最も適切な対応はどれか。

ア．代表点の高さが合えば問題なしとする。

イ．水たまりに砂をまいて供用する。

ウ．局部勾配、排水柵との高さ関係、舗装不陸を測定し、機能不良の原因を特定して是正する。

エ．降雨時の機能は確認しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：局部不陸を見落とす。

イ：恒久的な解決にならない。

ウ：規格値だけでなく排水機能を評価している。

エ：排水施設の基本機能に関わる。

総合解説：品質は数値規格と目的物機能の両方で判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

園路舗装の品質試験で1ロットが規格値外となった。第二次検定の事例対応として最も適切な初動はどれか。

- ア．試験方法・試料・対象範囲を確認し、真の不適合か評価したうえで原因分析と処置を行う。
- イ．不適合値を平均から除外する。
- ウ．合格値が出るまで繰り返し合格値だけ記録する。
- エ．規格値を現場都合で変更する。

答え・解説 正答：ア

- ア：測定系と施工品質の双方を確認できる。
- イ：根拠なく結果を除外してはいけない。
- ウ：選択的な記録になる。
- エ：基準を無断変更できない。

総合解説：試験不適合では測定妥当性、影響範囲、原因、処置、再確認を順に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

同じ舗装不良が複数区画で繰り返し発生している。最も適切な対応はどれか。

- ア．不良箇所だけ直し後続は同じ方法で施工する。
- イ．個別箇所を手直ししつつ、共通する施工条件や手順を分析して後続区画の方法を修正する。
- ウ．不良が増えるまで原因分析しない。
- エ．不良件数を少なく見せるため記録をまとめる。

答え・解説 正答：イ

- ア：同じ不良が再発しやすい。
- イ：既発生不良の是正と再発予防を同時に行っている。
- ウ：予防の機会を失う。
- エ：品質改善にならない。

総合解説：繰り返し不良では共通原因を除去し、後続施工へフィードバックする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

クリティカル工程上の施設基礎で品質不良が判明し、再施工に3日必要である。最も適切な判断はどれか。

- ア．工期優先で不良基礎を使用する。
- イ．工程表だけ完成日を3日後へずらす。
- ウ．必要品質を満たす是正を優先し、再施工範囲を確定して後続作業や他区域の工程を再調整する。
- エ．品質記録を変更して合格扱いにする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：目的物の品質・安全を損なう。
- イ：回復可能性を検討していない。
- ウ：品質を守りながら工程影響を最小化している。
- エ：不正な管理である。

総合解説：品質不良が工程へ影響しても要求品質を確保したうえで再計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

複数現場で同一資材の不具合が発生している。最も適切な対応はどれか。

- ア．各現場が個別処理し情報共有しない。
- イ．最初の現場だけ施工ミスと決める。
- ウ．ロット、納入先、検査記録を横断確認し、共通ロットや供給工程に原因がないか調べる。
- エ．未使用ロットも確認せず全量廃棄する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：共通原因を見逃す。
- イ：根拠なく原因を限定している。
- ウ：供給連鎖を含めて影響範囲を特定できる。
- エ：影響範囲を特定していない。

総合解説：広域的な品質問題はロット、供給元、施工条件、検査記録を横断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

完成した園路の幅員と高さを検査する場面で、出来形管理の進め方として最も適切なものはどれか。

- ア．定められた測定項目・基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録する。
- イ．目視だけで近ければ合格とする。
- ウ．完成後に代表一点だけ測定する。
- エ．不適合値を記録から除く。

答え・解説 正答：ア

- ア：令和8年施工管理基準の基本に合う。
 - イ：客観的な測定が必要である。
 - ウ：定められた測定基準に従う必要がある。
 - エ：実測結果を適切に管理する必要がある。
- 総合解説：出来形管理は所定の頻度・方法で実測し、設計値と対比して規格適合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

出来形管理における規格値の扱いとして最も適切なものはどれか。

- ア．平均値が規格内なら一部の外れ値も合格とする。
- イ．最大値だけ規格内ならよい。
- ウ．規格値は完成後に現場で決める。
- エ．管理対象として測定した各実測値が規格値を満足するよう管理する。

答え・解説 正答：エ

- ア：各実測値の適合が必要である。
 - イ：他の測定値も確認対象である。
 - ウ：設計図書・基準に基づく。
 - エ：平均値だけでなく個々の実測値を確認する考え方である。
- 総合解説：出来形の規格値は個々の実測値に対する判定基準である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

測定基準が「40mにつき1か所」の工種を延長95m施工した。最少測定箇所数として適切なものはどれか。

- ア．延長全体を代表する1か所だけ測定すればよいと考える。
- イ． $95 \div 40 = 2.375$ の小数部分を切り捨て、2か所だけ測定する。
- ウ．40 mごとの基準を満たすため $95 \div 40$ を切り上げ、3か所測定する。
- エ．両端を必ず二重計上する考え方で、基準によらず4か所とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。95 mに対して40 mごとの測定基準を満たさない。
 - イ：誤り。端数区間も測定対象となるため切り捨てない。
 - ウ：正しい。 $95 \div 40 = 2.375$ なので、端数を含めて3か所必要である。
 - エ：誤り。基準上の最少箇所数は3か所である。
- 総合解説：「○○につき1か所」の測定箇所数は小数点以下を切り上げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

ベンチ基礎の平面位置は規格内だが天端高さが規格外であった。最も適切な判定はどれか。

- ア．位置が適合しているため全体を合格とする。
- イ．位置が適合していても高さが規格外なら不適合として処置する。
- ウ．高さは見えないので測定値を削除する。
- エ．位置と高さの誤差を相殺する。

答え・解説 正答：イ

- ア：高さの不適合を無視している。
 - イ：各管理項目はそれぞれ要求を満たす必要がある。
 - ウ：規格適合が必要である。
 - エ：異なる管理項目は相殺できない。
- 総合解説：幅、高さ、位置、厚さ等は項目ごとに基準へ適合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

完成後に見えなくなる施設基礎の出来形管理として最も適切なものはどれか。

ア．埋戻し後に地表から推定する。

イ．埋戻し前に寸法・位置を測定し、測定状況が分かる写真・記録を残す。

ウ．写真だけ撮り寸法測定しない。

エ．測定値だけ残し場所を特定できなくする。

答え・解説 正答：イ

ア：正確な確認が困難である。

イ：不可視となる前に客観的な証拠を残せる。

ウ：要求寸法を確認できない。

エ：追跡性が不足する。

総合解説：不可視部は次工程前に測定し、位置・寸法・施工状況が追跡できる形で記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

延長100mの園路で1測点だけ幅員が規格外だった。最も適切な対応はどれか。

ア．当該測点周辺の測定を追加して不適合範囲を確認し、必要範囲を是正して再測定する。

イ．1点だけなので測定値を削除する。

ウ．原因確認なしで100m全てを撤去する。

エ．平均幅が規格内なら合格とする。

答え・解説 正答：ア

ア：局部不良の範囲を合理的に把握できる。

イ：不適合を隠すことになる。

ウ：過剰な処置となる可能性がある。

エ：個々の規格外値を無視できない。

総合解説：局部不良では追加確認で範囲を特定し、必要範囲を是正・再確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

排水側溝の各断面寸法は規格内だが、一部で逆勾配となり水が滞留する。最も適切な判定はどれか。

ア．断面寸法が規格内なので合格とする。
イ．水が蒸発すれば問題ないとする。
ウ．全区間を無条件に交換する。
エ．断面寸法だけでなく縦断勾配と排水機能を確認し、機能を満たさない区間を是正する。

答え・解説 正答：エ

ア：排水機能不良を見落としている。
イ：恒久的な機能不良である。
ウ：不良範囲の特定が先である。
エ：設計で要求された機能まで評価している。
総合解説：出来形判定は規格寸法とともに設計上の勾配・位置・機能を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

ある測点だけ他と大きく異なり規格外となった。最も適切な対応はどれか。

ア．外れ値なので理由なく削除する。
イ．測定機器・基準点・記録誤りを確認して再測定し、真に不適合なら施工原因と範囲を調べる。
ウ．再測定せず全区間を不合格にする。
エ．規格値を外れ値に合わせて変更する。

答え・解説 正答：イ

ア：真の不適合を見逃す可能性がある。
イ：測定異常と施工不良の双方を検証している。
ウ：測定誤りの可能性を確認していない。
エ：基準を現場都合で変えられない。
総合解説：異常値は測定系の妥当性を確認し、その後に施工不良として原因・範囲を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

災害原因分析として最も適切な考え方はどれか。

ア．被災者の不注意だけを原因とする。

イ．被災時の直接的な危険行動・設備状態だけでなく、作業計画・教育・監督等の背景要因も確認する。

ウ．事故結果だけ記録し原因を調べない。

エ．原因を最初から一つに決める。

答え・解説 正答：イ

ア：設備・手順・管理要因を見落とす。

イ：表面的原因の背後にある管理要因まで分析できる。

ウ：再発防止につながらない。

エ：複数要因が重なる可能性を無視している。

総合解説：災害原因は人、設備、方法、環境、管理の各側面から整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

脚立からの墜落災害で確認すべき事項として最も適切なものはどれか。

ア．被災者の年齢だけ。

イ．作業日の曜日だけ。

ウ．脚立の設置状態、使用方法、作業高さ、身体の乗り出し、代替設備の検討状況。

エ．完成予定日だけ。

答え・解説 正答：ウ

ア：墜落原因を説明できない。

イ：因果関係が乏しい。

ウ：墜落に直結する設備・方法・姿勢を確認している。

エ：直接的な墜落要因を把握できない。

総合解説：墜落災害では作業床、昇降設備、墜落防止設備、作業方法、指揮を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

バックホウの後退時に作業員と接触した災害で、最も適切な原因分析はどれか。

ア．運転者の性格だけを調べる。

イ．機械の塗装色を確認する。

ウ．死角、立入範囲、誘導者、合図方法、人と機械の動線分離を確認する。

エ．修理費だけを集計する。

答え・解説 正答：ウ

ア：作業環境・管理要因を確認できない。

イ：接触原因と関係がない。

ウ：重機接触を防ぐ作業システムが機能したか確認している。

エ：原因分析ではない。

総合解説：重機接触災害では分離、死角、誘導、合図、作業計画を重点的に分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

剪定枝が落下して下方の作業員に当たった災害で、最も適切な原因分析はどれか。

ア．落下範囲の設定、立入禁止、枝の切断・吊り下ろし方法、合図・監視を確認する。

イ．枝の葉色だけを調べる。

ウ．被災者の靴だけを調べる。

エ．作業員数だけを原因とする。

答え・解説 正答：ア

ア：落下そのものと人の立入りの双方を分析している。

イ：落下原因の核心ではない。

ウ：落下防止の原因分析にならない。

エ：区域管理や作業方法を確認する必要がある。

総合解説：落下物災害では落下防止と危険範囲から人を排除する措置を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

降雨翌日に掘削壁が崩壊した。最も適切な原因分析はどれか。

ア：雨が降ったことだけを唯一の原因とする。

イ：崩壊土量だけを測る。

ウ：被災者が近くにいたことだけを原因とする。

エ：土質・含水状態、掘削勾配、土止め、上載荷重、排水、降雨後点検の有無を確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：土止め・排水等の管理要因を見落とす。

イ：原因を特定できない。

ウ：崩壊発生原因と立入管理を分けて分析する必要がある。

エ：自然条件と施工・管理条件を総合している。

総合解説：崩壊災害では地盤条件、施工条件、点検、立入管理を多面的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

クレーンの吊荷が振れて作業員に接触した。最も適切な原因分析はどれか。

ア：吊荷重量・重心、玉掛け、風、作業半径、合図、立入範囲、介錯方法を確認する。

イ：クレーンの車体色を原因とする。

ウ：接触位置だけ記録して作業方法は調べない。

エ：運転者だけを原因とする。

答え・解説 正答：ア

ア：荷の挙動と人の配置に関わる要因を網羅している。

イ：因果関係がない。

ウ：再発要因を把握できない。

エ：荷・環境・管理要因を無視している。

総合解説：揚重災害は機械、荷、玉掛け、風、合図、立入管理を一連のシステムとして分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

工事車両が公園出入口で歩行者と接触した。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．車両・歩行者動線、見通し、誘導員、出入口構造、通行量、運転手への指示を確認する。
- イ．歩行者がいたこと自体を原因とする。
- ウ．車両の購入価格だけを調べる。
- エ．事故時刻だけ確認して対策を決める。

答え・解説 正答：ア

ア：第三者と車両が交錯した条件を分析している。

イ：供用環境では歩行者の存在を前提にすべきである。

ウ：事故原因と関係がない。

エ：動線や誘導条件を把握できない。

総合解説：第三者事故では施工側が交錯を防ぐ仕組みを設けていたかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

移動式クレーンのブームが架空線へ接近し感電事故が発生した。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．作業員の服の色だけを確認する。
- イ．新型クレーンなので設備要因はないとする。
- ウ．架空線位置・電圧確認、離隔計画、監視・誘導、作業半径、事前協議の有無を確認する。
- エ．事故後に初めて電線位置を調べればよいとする。

答え・解説 正答：ウ

ア：原因分析にならない。

イ：運用・計画要因があり得る。

ウ：事前調査から作業管理まで接近防止策を検証している。

エ：事前確認不足が重要な要因である。

総合解説：架空線災害では事前調査、離隔、関係者調整、監視、作業制限を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

作業員が熱中症で救急搬送された。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．本人の体質だけを原因とする。
- イ．気温だけ確認し作業内容は調べない。
- ウ．搬送されたため原因分析は不要とする。
- エ．暑熱環境、作業強度、休憩・補給、体調、暑熱順化、報告・救護体制を確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：現場管理要因を見落とす。
イ：作業強度等も熱負荷に影響する。
ウ：再発防止のため検証が必要である。
エ：環境・作業・個人・管理の複数要因を確認している。
総合解説：健康災害でも環境、作業、人、管理の各要因を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

移植した大径木が強風で倒れた。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．根鉢の大きさ・据付け、支柱・結束、土壌支持、風条件、点検履歴を確認する。
- イ．風が吹いたことだけを原因とする。
- ウ．樹種名だけで原因を決める。
- エ．倒伏後の枝数だけを数える。

答え・解説 正答：ア

ア：造園特有の植物・支持構造・気象条件を組み合わせている。
イ：支持・施工の適否も確認すべきである。
ウ：施工状態を無視している。
エ：原因を特定できない。
総合解説：造園工事の倒木災害では根系、支持、施工、気象、点検履歴を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

重機接触事故で「作業員が旋回範囲に入った」ことが判明した。より深い原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．立ち入った作業員だけを処分して終える。
- イ．一度の事故なので分析を省略する。
- ウ．機械メーカーを替えるだけで解決とする。
- エ．なぜ立入りが可能だったかを、作業区画、合図、誘導、手順、教育、監督の不足まで段階的に追う。

答え・解説 正答：エ

- ア：同じ条件が残り再発し得る。
 - イ：再発防止の機会を失う。
 - ウ：区画・手順の原因が残る。
 - エ：直接原因の背後にある管理システムの弱点を分析している。
- 総合解説：原因分析は何が起きたかだけでなく、なぜ防げなかったかまで掘り下げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

- 災害発生後の原因分析で最も適切な進め方はどれか。
- ア．現場状況を記録し、証言、作業計画、点検記録、写真等を照合して事実を整理する。
 - イ．最初の証言だけを事実とする。
 - ウ．原因を先に決め合わない記録を除外する。
 - エ．現場状況を記録せず全て片付ける。

答え・解説 正答：ア

- ア：推測ではなく複数の客観情報で事実関係を確認している。
 - イ：記憶違い等を検証できない。
 - ウ：偏った分析になる。
 - エ：原因究明資料を失う。
- 総合解説：救助・二次災害防止を優先したうえで、客観資料を保全し事実と推定を区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

再発防止策として最も適切な考え方はどれか。

- ア．特定した原因ごとに、危険源除去・設備改善・手順・教育・監督など実効性のある対策を対応させる。
- イ．原因と関係なく全員へ注意喚起だけ行う。
- ウ．被災者を交代させれば再発しないとする。
- エ．同じ方法を変えず事故が起きないことを期待する。

答え・解説 正答：ア

- ア：原因と対策が対応している。
- イ：本質的な原因が残る。
- ウ：設備・手順の要因が残る。
- エ：再発防止にならない。

総合解説：再発防止は原因を除去・低減できる具体的な仕組みへ落とし込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

危険区域への立入りが原因となった災害の再発防止として、より確実性が高いものはどれか。

- ア．「気を付ける」と掲示するだけ。
- イ．事故経験者だけへ口頭注意する。
- ウ．物理的な柵などで危険区域への立入りを制限し、手順・教育も併用する。
- エ．標識を撤去して自己判断に任せる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：注意力だけに依存している。
- イ：他の作業員へ反映されない。
- ウ：人の注意だけに依存せず危険への接近を制限している。
- エ：リスクを増やす。

総合解説：危険源除去・隔離など確実性の高い対策を優先し、教育等を補完的に使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

事故原因が作業手順の不備にあった場合の再発防止として最も適切なものはどれか。

ア．手順を具体的に改訂し、関係者へ教育し、実作業で守られているか確認する。

イ．手順書を書き換えるだけで知らせない。

ウ．口頭注意だけで手順書は古いままにする。

エ．作業者ごとに自由な方法を選ばせる。

答え・解説 正答：ア

ア：標準化、教育、実施確認まで行っている。

イ：現場行動は変わらない。

ウ：標準作業が統一されない。

エ：同じ危険が再発し得る。

総合解説：手順の再発防止策は文書改訂だけでなく周知・教育・遵守確認まで必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

バックホウ接触災害の再発防止策として最も適切なものはどれか。

ア．運転者へ注意書きを渡すだけ。

イ．人と重機の作業区域を分離し、必要な箇所に誘導者を置き、合図方法を統一する。

ウ．速度だけ少し下げ立入管理しない。

エ．近づく際は作業員の自己判断に任せる。

答え・解説 正答：イ

ア：死角や交錯条件が残る。

イ：交錯そのものを減らし運用ルールも統一している。

ウ：接触可能性が残る。

エ：統一したルールがない。

総合解説：重機災害は分離、誘導、合図、監視、作業計画を組み合わせで再発を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

脚立からの墜落が発生した作業を再開する場合、最も適切な再発防止はどれか。

ア．高所作業車や適切な作業床への変更を検討し、脚立使用時は用途・設置・作業姿勢を明確にする。

イ．同じ脚立で注意だけ強化する。

ウ．脚立をさらに高くする。

エ．事故を経験した作業員だけ外す。

答え・解説 正答：ア

ア：より安全な作業方法への代替を優先している。

イ：危険な作業条件が残る。

ウ：墜落危険が増える。

エ：設備・方法の原因が残る。

総合解説：墜落再発防止ではより安全な作業設備への代替を優先し、ルール・点検を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

重大事故には至らなかったヒヤリハット情報の扱いとして最も適切なものはどれか。

ア．けががないので記録しない。

イ．報告者を責めて報告を減らす。

ウ．その班だけの偶然として共有しない。

エ．原因と潜在的被害を分析し、類似作業へ対策を横展開する。

答え・解説 正答：エ

ア：予防の機会を失う。

イ：情報が上がらなくなる。

ウ：類似リスクを見逃す。

エ：事故前の兆候を予防へ活用している。

総合解説：ヒヤリハットは潜在危険の情報源として原因分析と水平展開に活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

再発防止策を実施した後の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．文書を発行した時点で完了とする。
- イ．再び事故が起きるまで確認しない。
- ウ．守られていない手順でも見直さない。
- エ．現場点検や作業観察で対策が守られ、リスクが実際に低下しているか確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：現場で機能しているか不明である。
- イ：予防管理にならない。
- ウ：形骸化する。
- エ：対策の実効性を評価している。

総合解説：再発防止は対策実施、遵守確認、効果評価、追加改善まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

一つの作業班で発生した災害の再発防止を現場全体へ定着させる方法として最も適切なものはどれか。

- ア．事故班だけに対策させる。
- イ．原因と対策を他班・協力会社へ共有し、類似作業の手順・設備も点検して改善する。
- ウ．会社名だけ共有し原因は伝えない。
- エ．一度口頭で伝え手順は変えない。

答え・解説 正答：イ

- ア：他班で再発する可能性がある。
- イ：同種リスクを現場全体から減らせる。
- ウ：学習につながらない。
- エ：対策が定着しにくい。

総合解説：水平展開では類似作業へ手順、設備、点検、教育を反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

吊荷接触災害の原因が「合図不統一」「立入範囲不明確」「強風」であった。最も適切な再発防止はどれか。

- ア．合図者の一本化、物理的な立入区画、風による中止基準を同時に導入する。
- イ．合図者だけ交代する。
- ウ．強風時だけ注意喚起する。
- エ．立入区画だけ設ける。

答え・解説 正答：ア

ア：複数原因それぞれへ独立した対策を当てている。

イ：立入・強風の原因が残る。

ウ：合図不統一が残る。

エ：強風条件の管理が残る。

総合解説：複数原因の災害には各原因へ対応する多層の防護を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

再発防止策を一時的な対応で終わらせない方法として最も適切なものはどれか。

- ア．事故直後の一週間だけ重点実施する。
- イ．担当者の個人メモだけに残す。
- ウ．対策の見直しを永久に禁止する。
- エ．手順・教育・点検表へ反映し、定期的に遵守状況と事故・ヒヤリハットを評価して見直す。

答え・解説 正答：エ

ア：対策が定着しない。

イ：人が変わると対策が失われる。

ウ：現場条件の変化へ対応できない。

エ：対策を組織の標準管理へ組み込んでいる。

総合解説：再発防止は標準化、教育、監査、評価、見直しのサイクルへ組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

安全・品質上の是正指示として最も適切な内容はどれか。

- ア．不適合・危険な状態を具体的に示し、停止範囲、是正方法、確認条件、期限を明確にする。
- イ．「もっと気を付けること」とだけ指示する。
- ウ．対象を示さず全員を叱責する。
- エ．曖昧に口頭で伝え確認しない。

答え・解説 正答：ア

ア：誰が何を直し何をもって完了・再開とするかが明確である。

イ：具体的な是正内容がない。

ウ：改善行動につながらない。

エ：実施・完了を追跡できない。

総合解説：是正指示は事実、要求、措置、期限、再確認を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

足場の手すりが外れた状態で高所作業を続けようとしている。最も適切な指示はどれか。

- ア．注意しながらそのまま続ける。
- イ．当該作業を直ちに停止し、墜落防止設備を復旧・点検して安全確認後に再開させる。
- ウ．昼休みまで続けてから修理する。
- エ．事故が起きたら復旧する。

答え・解説 正答：イ

ア：墜落危険が残る。

イ：重大な危険を作業継続より優先して除去している。

ウ：危険状態を放置する。

エ：予防措置になっていない。

総合解説：差し迫った危険では停止→危険除去→確認→再開を徹底する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

規格違いの材料が施工場所へ運ばれている。最も適切な是正指示はどれか。

ア．目立たない場所に使う。

イ．使用を停止し、適合品と区分・識別し、交換や使用可否決定後に再確認する。

ウ．適合品と混ぜる。

エ．ラベルだけ書き換える。

答え・解説 正答：イ

ア：要求品質を満たさない。

イ：誤使用を防ぎ適合性を回復できる。

ウ：不適合材料を使用することになる。

エ：実物の品質は変わらない。

総合解説：品質是正では使用停止、識別・隔離、処置、再確認を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

工事区画のバリケードが一部開放され、一般利用者が容易に進入できる。最も適切な指示はどれか。

ア．注意看板を増やすだけで開口部は残す。

イ．入った人だけに声掛けする。

ウ．開口部を直ちに閉鎖・固定し、案内・巡回を確認してから通常作業へ戻す。

エ．夜間だけ閉じる。

答え・解説 正答：ウ

ア：侵入可能性が残る。

イ：予防的な管理にならない。

ウ：第三者侵入経路を物理的に是正している。

エ：供用時間中の危険が残る。

総合解説：第三者安全の是正では危険区域へのアクセスを確実に制限する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

降雨後、掘削面に亀裂と小規模な崩れが見られる。最も適切な指示はどれか。

- ア．亀裂を土で隠して作業を続ける。
- イ．作業員を増やして短時間で終える。
- ウ．掘削縁に土砂を追加する。
- エ．掘削部への立入りを停止し、地山・排水・土止めを点検して必要な補強後に安全確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：原因を除去していない。
- イ：崩壊リスクが残る。
- ウ：上載荷重が増える。
- エ：崩壊兆候に対して停止と原因是正を優先している。

総合解説：崩壊兆候では立入停止、原因確認、排水・土止め等の是正、再点検を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

玉掛けワイヤロープに著しい損傷が確認された。最も適切な指示はどれか。

- ア．使用を禁止して区別し、適合する用具へ交換し、他の同種用具も点検する。
- イ．荷が軽い場合だけ使用する。
- ウ．損傷部をテープで巻いて使用する。
- エ．経験者だけに使わせる。

答え・解説 正答：ア

- ア：異常用具の再使用防止と水平確認を行っている。
- イ：破断危険を残す。
- ウ：強度回復を保証できない。
- エ：物理的欠陥は経験で補えない。

総合解説：異常用具は使用停止・識別し、交換と同種点検でリスクを除去する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

資材が避難通路にはみ出し、転倒の危険もある。最も適切な指示はどれか。

- ア．避難通路を直ちに確保し、資材を安定した指定場所へ移動・固定して保管ルールを再周知する。
- イ．通れる隙間があるのでそのままにする。
- ウ．注意書きだけ貼って位置は変えない。
- エ．避難通路表示を消して資材置場にする。

答え・解説 正答：ア

ア：直近の危険除去と再発予防を含んでいる。

イ：避難・転倒リスクを軽視している。

ウ：通路障害が残る。

エ：安全計画を無断変更している。

総合解説：是正では危険状態の即時解消と置場・ルール・点検の再発防止を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：応用

巡回で 吊荷下への立入り、 舗装幅の軽微な規格外、 資材表示不足を同時に確認した。最初に行うべき是正はどれか。

- ア．吊荷下への立入りを直ちに停止・排除し、その後に品質不適合と表示不足を計画的に是正する。
- イ．舗装幅の記録修正を最初に行う。
- ウ．資材表示を整えてから吊荷作業を見る。
- エ．三つとも次回会議まで保留する。

答え・解説 正答：ア

ア：人命に直結する差し迫った危険を最優先している。

イ：緊急な人身危険より優先度が低い。

ウ：重大危険を放置している。

エ：即時是正が必要な危険がある。

総合解説：複数は正事項では重大性と緊急性で優先順位を付け、差し迫った人身リスクを最初に除去する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

造園工事を元請として1億2,000万円を受注し、下請契約総額が5,400万円となる。建築一式工事ではない。最も適切な技術者配置はどれか。

- ア．一般建設業のまま主任技術者を配置する。
- イ．特定建設業の許可を受け、主任技術者に代えて監理技術者を配置する。
- ウ．下請契約があれば金額に関係なく監理技術者を置く。
- エ．請負総額が1億円を超えれば下請額に関係なく監理技術者を置く。

答え・解説 正答：イ

- ア：下請総額基準を超えているため不適切。
 - イ：元請の下請総額が5,000万円以上のため、特定建設業許可と監理技術者が必要となる。
 - ウ：監理技術者の要否は法定金額等で判断する。
 - エ：元請請負総額だけでは決まらない。
- 総合解説：監理技術者の要否では、元請であることと下請契約総額を確認する。現行基準は建築一式以外5,000万円。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

一次下請業者が8,000万円の造園工事を請け負い、そのうち6,000万円を二次下請へ発注する。一次下請業者の技術者として原則適切なのはどれか。

- ア．監理技術者を配置する。
- イ．技術者は不要である。
- ウ．現場代理人だけを置けばよい。
- エ．主任技術者を配置する。

答え・解説 正答：エ

- ア：二次下請額が大きくても元請ではない。
 - イ：下請業者にも技術者配置が必要。
 - ウ：現場代理人は主任技術者の代替ではない。
 - エ：監理技術者は発注者から直接工事を請け負った元請に関する制度で、下請業者は原則主任技術者となる。
- 総合解説：主任・監理の区分は金額だけでなく元請・下請の立場を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

公共性のある造園工事を元請として4,600万円で受注し、下請契約総額は1,000万円である。建築一式工事ではない。技術者配置として最も適切なものはどれか。

ア．請負額が5,000万円未満なので、現場技術者を配置しなくてよい。

イ．請負額だけを理由に監理技術者を専任で配置する。

ウ．主任技術者を配置するが、4,500万円の専任基準を下回るとして非専任とする。

エ．下請総額が監理技術者基準未満なので主任技術者とし、公共性のある工事で請負額4,500万円以上のため原則専任とする。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。許可業者が工事を施工する場合の技術者配置義務を請負額だけで否定できない。

イ：誤り。監理技術者の要否は元請の下請契約総額等で判定する。

ウ：誤り。請負額4,600万円は建築一式以外の専任基準4,500万円以上に該当する。

エ：正しい。主任・監理の区分と、専任・非専任の区分を別々に判定している。

総合解説：この事例では下請総額5,000万円未満なので主任技術者が基本となり、請負額4,500万円以上の公共性のある工事なので原則専任となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

公共造園工事を元請として4,800万円で受注し、下請総額は1,200万円である。建築一式ではない。最も適切な配置はどれか。

ア．主任技術者を専任で配置することを基本に検討する。

イ．監理技術者を専任で配置する。

ウ．主任技術者を非専任で配置する。

エ．技術者は不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：下請総額は5,000万円未満なので主任技術者、請負額は4,500万円以上なので専任基準に該当する。

イ：下請総額が監理技術者基準未満。

ウ：公共性ある工事で専任基準以上。

エ：建設業者の施工では技術者配置が必要。

総合解説：『主任か監理か』と『専任か非専任か』は別の条件で判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

造園工事業の許可を受けた会社が300万円の造園工事を施工する。技術者配置として最も適切なのはどれか。

- ア．500万円未満なので主任技術者は絶対不要。
- イ．300万円なら監理技術者を置く。
- ウ．許可を受けた業種の工事であるため、原則として主任技術者を配置する。
- エ．現場代理人がいれば主任技術者は不要。

答え・解説 正答：ウ

ア：許可要否と許可業者の技術者配置は別論点。

イ：監理技術者要件ではない。

ウ：許可業者が許可業種の工事を施工する場合、軽微な工事でも主任技術者の配置が必要となる。

エ：代替関係ではない。

総合解説：軽微工事の許可基準と、許可業者の現場技術者配置を混同しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

現場代理人と主任技術者を同一人物が兼ねることを検討している。最も適切な考え方はどれか。

- ア．役割は同じなので常に自動的に兼任できる。
- イ．現場代理人を置けば主任技術者は不要。
- ウ．主任技術者は契約事務だけを行う。
- エ．契約条件や専任要件等を確認し、双方の職務を適切に果たせる場合に兼任可否を判断する。

答え・解説 正答：エ

ア：役割・根拠が異なる。

イ：技術者配置義務は別。

ウ：施工の技術上の管理を担う。

エ：両者は根拠・職務が異なるため、条件を個別に確認する。

総合解説：役職名だけでなく法的役割と職務遂行条件を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

工事途中で主任技術者を変更する必要が生じた。最も適切な対応はどれか。

ア．後任の資格を確認せず氏名だけ変更する。

イ．引継ぎをせず後任者に任せる。

ウ．発注者等への必要な手続を確認しない。

エ．後任者の要件を確認し、必要な手続と施工状況・技術管理事項の引継ぎを行う。

答え・解説 正答：エ

ア：要件確認が必要。

イ：重要情報が失われる。

ウ：契約・届出等の確認が必要。

エ：資格要件と管理の継続性の両方を確保する必要がある。

総合解説：技術者変更は人員交代だけでなく、資格・手続・記録引継ぎを一体で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

専任基準以上の公共工事の主任技術者を、別の遠隔地工事にも同時配置したい。最も適切な考え方はどれか。

ア．主任技術者なら何件でも無条件に兼任できる。

イ．遠隔地ほど兼任しやすい。

ウ．発注者の承諾だけで法令条件を無視できる。

エ．原則専任が必要であり、法令上の兼任特例等に該当するかを確認せず安易に兼任させない。

答え・解説 正答：エ

ア：専任義務等がある。

イ：職務遂行上むしろ不利。

ウ：法令要件は別途満たす必要。

エ：専任義務がある工事では例外要件の個別確認が必要。

総合解説：兼任可否は専任義務と法令上の特例要件を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

元請A社は発注者から造園工事1億円を受注し、B社・C社への下請総額は5,200万円。B社3,000万円、C社2,200万円。建築一式ではない。最も適切な組合せはどれか。

- ア．全社が監理技術者。
- イ．A社は主任、B・Cは監理。
- ウ．A社は監理技術者、B社とC社はそれぞれ主任技術者を配置する。
- エ．A社だけ技術者を配置する。

答え・解説 正答：ウ

ア：下請業者まで同じ条件で監理技術者にはならない。
イ：元請・下請の判断が逆。
ウ：A社は元請かつ下請総額5,000万円以上、B・Cは下請業者である。
エ：下請業者にも配置が必要。
総合解説：会社ごとに元請・下請と下請発注状況を分けて判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

専任が必要な主任技術者がほとんど現場に関与せず、別現場の管理を常態的に行っていたことが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．専任・兼任要件と実態を確認し、不適切なら適格な配置へ是正して必要な報告を行う。
- イ．施工体制台帳に氏名があれば実態は問わない。
- ウ．工期が遅れていなければ是正不要。
- エ．別現場との兼任は会社内部だけの問題。

答え・解説 正答：ア

ア：名義上の配置ではなく実質的に職務を遂行できる体制が必要。
イ：名義だけでは不十分。
ウ：工程と適法性は別。
エ：契約・法令上の問題となり得る。
総合解説：技術者制度は適正施工を実質的に確保するための制度である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

公共造園工事で、元請A社が新たに一次下請B社と契約することになった。施工体制台帳等の取扱いとして最も適切なものはどれか。

- ア．下請総額5,000万円未満なら絶対不要。
- イ．公共工事では、下請契約を締結する元請業者は施工体制台帳等の作成対象となる。
- ウ．一次下請だけが作成する。
- エ．完成後に初めて作成する。

答え・解説 正答：イ

- ア：公共工事は別扱い。
 - イ：公共工事では下請金額にかかわらず、下請契約を締結する元請に作成義務がある。
 - ウ：元請が施工体制を把握する資料。
 - エ：施工中に作成・更新する。
- 総合解説：公共工事の施工体制台帳等は、下請構造の透明化と適正施工確保に用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

施工体系図の主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．工事原価だけを公表する。
- イ．元請・下請関係や施工分担、技術者等の施工体制を分かりやすく示す。
- ウ．作業員の給与額を掲示する。
- エ．完成後の維持管理費を示す。

答え・解説 正答：イ

- ア：目的外。
 - イ：施工関係を可視化する資料である。
 - ウ：目的外。
 - エ：施工中の体制図である。
- 総合解説：施工体系図は現場関係者等が施工体制を把握しやすくする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

工事途中で新たな下請業者を追加した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．当初内容を完成まで変えない。
- イ．口頭共有だけでよい。
- ウ．追加内容を反映して施工体制台帳・施工体系図等を速やかに更新する。
- エ．体系図だけ更新し台帳は更新しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：実態と不一致になる。
 - イ：正式な資料へ反映する必要。
 - ウ：施工体制資料は現場実態と一致させる必要がある。
 - エ：関連資料を整合させる。
- 総合解説：施工体制資料は作成後も下請・技術者変更等に応じて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

一次下請から『二次下請は現場で決めるので元請には知らせない』と言われた。元請の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．一次下請より下は元請の管理対象外。
- イ．再下請負通知等により実際の下請構造を把握し、施工体制台帳等へ反映する。
- ウ．二次下請を匿名で施工させる。
- エ．下請が増えるほど台帳を簡略化する。

答え・解説 正答：イ

- ア：多層下請も把握が必要。
 - イ：元請は施工体制全体を把握する必要がある。
 - ウ：体制の透明性を失う。
 - エ：複雑なほど正確な把握が必要。
- 総合解説：元請は施工を担う会社・技術者・役割を把握し、実態と資料を一致させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

元請が施工管理をほとんど行わず、工事の全部を一社の下請へ任せようとしている。最も適切な判断はどれか。

- ア．一括下請負に該当するおそれがあり、元請として実質的に施工へ関与する体制へ是正する。
- イ．下請に能力があれば元請は一切関与不要。
- ウ．高額工事ほど丸投げが推奨される。
- エ．契約書に下請と書けば実態は問わない。

答え・解説 正答：ア

ア：一括下請負は原則禁止で、元請の実質的関与が必要。

イ：原則禁止の趣旨に反する。

ウ：誤り。

エ：形式ではなく実態が重要。

総合解説：一括下請負では、施工計画・工程・品質・安全等への実質的関与が重要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

造園工事の一部を下請へ発注する際、元請の確認として最も適切なものはどれか。

- ア．見積額が安ければ許可等は確認しない。
- イ．会社名だけ確認し施工業種は見ない。
- ウ．契約後は下請体制を確認しない。
- エ．工事内容と金額に応じ、必要な建設業許可、配置技術者、契約内容等を確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：価格だけでは判断不可。

イ：許可業種との整合が必要。

ウ：施工中も実態把握が必要。

エ：下請が適法かつ適切な施工体制を持つか確認する必要がある。

総合解説：下請確認では業種・許可・技術者・契約・再下請等を総合的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

施工体系図に記載のない会社の作業員が施工していることを確認した。最も適切な対応はどれか。

ア．契約関係・再下請状況を確認し、適法性を確認したうえで台帳・体系図を是正する。

イ．品質が良ければ確認不要。

ウ．入場記録から会社名を削除する。

エ．下請問の問題として元請は関与しない。

答え・解説 正答：ア

ア：無届再下請等の可能性があるため確認が必要。

イ：適法な施工体制の把握が必要。

ウ：実態隠し。

エ：元請が全体を把握する。

総合解説：資料不一致は書類ミスだけでなく、不適切施工体制の兆候にもなり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

元請Aの下にB・C、Bの下にD、Dの下にEが入り、実施工は主にEが担当する。Dは現場管理をほとんど行っていない。最優先で確認すべき事項はどれか。

ア．会社数が多いだけで全て違法と断定する。

イ．Eが施工するためAの管理は不要。

ウ．Dを含む各社の契約内容と実質的な施工関与を確認し、一括下請負等の不適切な体制がないか検証する。

エ．台帳に名前があれば実態確認不要。

答え・解説 正答：ウ

ア：多層だけでは直ちに違法ではない。

イ：元請の実質的関与は必要。

ウ：中間会社の実質的に関与しない場合、丸投げ等の可能性を確認する。

エ：書類と実態の両方を見る。

総合解説：複雑な体制では契約・役割・技術者・実施工を突合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

主要下請業者が工事途中で交代する。法令・施工管理の両面から最も適切な対応はどれか。

ア．台帳だけ更新し品質・安全は引き継がない。

イ．品質記録だけ引き継ぎ許可を確認しない。

ウ．工事が続けば下請交代を記録しない。

エ．契約・許可・技術者を確認し、施工体制資料を更新するとともに、未完了作業・品質記録・安全事項を新体制へ引き継ぐ。

答え・解説 正答：エ

ア：管理継続性が失われる。

イ：適法性確認が不足。

ウ：実態と資料を一致させる。

エ：法定書類の更新と実務引継ぎを同時に行う。

総合解説：施工体制変更は法令手続と工程・品質・安全の継続性を一体で処理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

工事のため道路上に作業区域を設け一般交通に影響を与える場合、道路使用許可の申請先はどれか。

ア．その場所を管轄する警察署長。

イ．道路管理者だけ。

ウ．河川管理者。

エ．税務署長。

答え・解説 正答：ア

ア：道路交通法に基づく道路使用許可は管轄警察署長へ申請する。

イ：道路占用許可とは別。

ウ：道路使用の主体ではない。

エ：無関係。

総合解説：道路使用と道路占用は許可主体が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

道路に工事用仮設物を継続して設置し道路を占有する場合、許可主体はどれか。

- ア．警察署長だけ。
- イ．労働基準監督署長。
- ウ．消防署長。
- エ．道路管理者。

答え・解説 正答：エ

ア：道路使用とは別制度。
イ：占有許可主体ではない。
ウ：占有許可主体ではない。
エ：道路法に基づく道路占有は道路管理者の許可を受ける。
総合解説：道路占有と道路使用の許可先を区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

河川区域内の土地を占有し工作物を設置する計画がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．道路使用許可だけを取る。
- イ．民有地に接していれば河川法確認不要。
- ウ．完成後に報告すればよい。
- エ．河川法上必要となる土地占有や工作物設置等の許可を河川管理者へ申請する。

答え・解説 正答：エ

ア：河川法許可とは別。
イ：河川区域該当性が重要。
ウ：原則事前許可。
エ：河川区域内の占有・工作物設置等は河川法上の許可対象となる場合がある。
総合解説：河川区域では行為ごとに必要な許可を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

歩道の一部を3週間囲って仮囲いと資材置場を設け、工事車両の出入りで交通誘導も行う。最も適切な手続はどれか。

- ア．道路使用許可だけで占有も自動許可。
- イ．道路占有許可だけで交通規制も可能。
- ウ．道路占有許可と道路使用許可の双方の要否を確認し、それぞれ道路管理者と警察へ申請する。
- エ．1か月未満なら両方不要。

答え・解説 正答：ウ

ア：別制度。
イ：道路使用が別途必要となる場合。
ウ：継続占有と交通影響が同時にあるため両制度の確認が必要。
エ：期間だけで決まらない。
総合解説：一つの工事行為に道路法と道路交通法が同時に関係することがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

指定地域内で騒音規制法の届出対象となる特定建設作業を予定している。原則として最も適切な対応はどれか。

- ア．作業開始の日の7日前までに必要な届出を行う。
- イ．終了後7日以内。
- ウ．苦情が出た場合だけ。
- エ．現場内作業なら確認不要。

答え・解説 正答：ア

ア：届出対象の特定建設作業は原則として開始7日前までに届け出る。
イ：事後届出ではない。
ウ：苦情の有無で決まらない。
エ：地域・作業種類で対象となる。
総合解説：対象地域、作業種類、開始日を事前確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

請負金額700万円の土木工事で、建設リサイクル法の対象建設工事に該当する可能性がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．工事内容と特定建設資材を確認し、対象なら分別解体等・再資源化等と必要な届出手続を行う。
- イ．1,000万円未満なら絶対対象外。
- ウ．対象でも混合処分を優先する。
- エ．届出は完成後でよい。

答え・解説 正答：ア

- ア：土木工事等では500万円以上が対象規模の一つである。
 - イ：土木工事等は500万円基準。
 - ウ：分別・再資源化が基本。
 - エ：着手前の手続が必要。
- 総合解説：工事種別ごとの対象規模を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

設計変更で道路上の占用範囲が当初より広がることになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．既存許可の条件を確認し、必要に応じて道路管理者・警察と協議して変更手続後に施工する。
- イ．当初許可があれば自由に拡大できる。
- ウ．変更手続前に施工し後から説明する。
- エ．発注者の設計変更で行政許可も自動変更。

答え・解説 正答：ア

- ア：許可範囲を超える変更は必要な変更手続を確認する。
 - イ：許可条件を守る必要。
 - ウ：無許可状態のおそれ。
 - エ：別手続。
- 総合解説：設計変更が行政許可へ影響する場合は変更要否も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

河川沿いの市道で、歩道上に仮囲いを20日設置し、河川区域内へ足場を張り出し、片側通行の交通誘導を行う。最も適切な事前対応はどれか。

- ア．道路占用・道路使用・河川法上の許可等の要否をそれぞれ確認し、必要手続を工程表へ組み込む。
- イ．道路使用許可だけで全て可能。
- ウ．河川管理者の許可だけで道路も可能。
- エ．短期工事なので行政手続不要。

答え・解説 正答：ア

ア：道路と河川で根拠法と許可主体が異なる。

イ：河川法・占用をカバーできない。

ウ：道路法・道路交通法が別。

エ：期間だけで不要にならない。

総合解説：場所・行為・期間を分解し、法令ごとの許可主体とリードタイムを整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

工事開始後、道路上の仮設物について必要な占用許可が未取得である可能性が判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．完成が近ければそのまま施工。
- イ．社内記録から仮設物を削除する。
- ウ．道路使用許可があれば占用許可も取得済みとみなす。
- エ．該当作業を止め、占用状況と許可要否を確認し、道路管理者等と協議して必要な手続を行う。

答え・解説 正答：エ

ア：違反状態を放置する。

イ：隠蔽。

ウ：別制度。

エ：無許可の可能性を把握したまま継続せず事実確認と是正を優先する。

総合解説：手続漏れは停止・確認・行政協議・再発防止の順で是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

進捗表：A 計画100%/実績100%、B 80%/55%、C 50%/50%、D 30%/35%。最も遅れが大きい作業はどれか。

- ア．作業B。
- イ．作業A。
- ウ．作業C。
- エ．作業D。

答え・解説 正答：ア

ア：計画80%に対し実績55%で25ポイント遅れている。
イ：遅れなし。
ウ：遅れなし。
エ：5ポイント先行。
総合解説：計画値と実績値の差を同じ基準で比較して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

園路幅員の規格値が設計値-20mm以上。設計2000mmに対し実測は 1995 1988 1978 2004mm。規格値を満たさないのはどれか。

- ア． 1995mm。
- イ． 1988mm。
- ウ． 1978mm。
- エ． 2004mm。

答え・解説 正答：ウ

ア：規格内。
イ：規格内。
ウ：許容下限1980mmを2mm下回る。
エ：規格内。
総合解説：設計値から許容下限を算定し各実測値を個別判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

元請工事A：請負8,000万/下請2,000万、B：6,000万/5,100万、C：1億/4,900万、D：4,000万/0。建築一式以外で監理技術者が必要なのはどれか。

- ア．工事A。
- イ．工事C。
- ウ．工事B。
- エ．工事D。

答え・解説 正答：ウ

ア：下請総額が基準未滿。

イ：請負額は大きいが下請総額が基準未滿。

ウ：元請の下請総額が5,000万円以上。

エ：下請なし。

総合解説：監理技術者判定では請負総額でなく下請総額の列を読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

同一材料の試験値が、1回目中心付近、2回目中心付近、3回目下限寄り、4・5回目下限近傍と推移し、まだ規格外はない。最も適切な判断はどれか。

- ア．全値規格内なので確認不要。
- イ．次回から試験を中止する。
- ウ．規格外になる前に材料・施工条件の変化を確認する。
- エ．最低値を記録から削除する。

答え・解説 正答：ウ

ア：傾向監視が必要。

イ：監視継続が必要。

ウ：規格内でも一方向への偏りが続く場合は異常の兆候として確認する。

エ：データ改ざん。

総合解説：品質管理では合否だけでなく時系列傾向も読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

経路P=A3日→B5日→C2日、Q=D4日→E4日→F4日、R=G2日→H6日→I1日。最も長い経路はどれか。

- ア．経路P。
- イ．経路Q。
- ウ．経路R。
- エ．全て同じ。

答え・解説 正答：イ

ア：10日。
イ：P=10日、Q=12日、R=9日。
ウ：9日。
エ：合計日数が異なる。
総合解説：各経路の所要日数を合計し最長経路を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

写真管理計画は 掘削完了、 基礎配筋完了、 コンクリート打設前、 埋戻し後。実記録は だけ。最優先で確認すべき事項はどれか。

- ア． の写真を削除する。
- イ． があるので 不要。
- ウ． の配筋が不可視になる前の写真・検査記録が他に残っていないか確認する。
- エ．必ず完成後に壊して撮影する。

答え・解説 正答：ウ

ア：欠落解消にならない。
イ：管理段階が異なる。
ウ：配筋は打設後に確認困難となる不可視部。
エ：まず既存記録等を確認する。
総合解説：工程順序と不可視部を結び付けて記録の重要度を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

リスクA=2×2=4、B=3×4=12、C=1×4=4、D=2×3=6。数値が大きいほど優先度が高い場合、最優先はどれか。

- ア．A。
- イ．C。
- ウ．リスクB。
- エ．D。

答え・解説 正答：ウ

ア：4。
イ：4。
ウ：評価値12で最大。
エ：6。
総合解説：定めた評価ルールに従い優先順位を付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

WBGTが8時25、10時27、12時29、14時31、16時28。最も暑熱対策を強化すべき時間帯はどれか。

- ア．朝は注意力が低いという理由だけで、WBGT25の8時を最優先時間帯とする。
- イ．表中でWBGTが31と最大になる14時に、休憩・作業負荷・補給等の対策を最も強化する。
- ウ．10時はWBGT27であるが、午後の測定値を比較せず最優先とする。
- エ．16時はWBGT28で対策が必要だが、14時の31より低いことを無視して最優先とする。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。表のWBGT値を比較すると8時は最も低い。
イ：正しい。14時が31で表中最大であり、最も強い暑熱対策が必要である。
ウ：誤り。10時の27より高い時間帯がある。
エ：誤り。16時も対策対象となり得るが、表中最大は14時である。
総合解説：時系列のピークを読み、重作業時間変更や休憩強化へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

施工体系図はA→B→Dだが、現場入場記録ではC社作業員が継続施工している。最も適切な判断はどれか。

ア．C社の契約・再下請関係を確認し、施工体制資料と実態を整合させる。

イ．品質が良ければ確認不要。

ウ．入場記録からC社名を削除。

エ．体系図は完成まで更新不要。

答え・解説 正答：ア

ア：記載外会社の施工は未反映再下請等の可能性がある。

イ：契約関係確認が必要。

ウ：実態隠し。

エ：変更に応じ更新。

総合解説：複数資料の不一致は実態調査で解消する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

作業A：遅れ2日/全体余裕5日、B：遅れ1日/余裕0日、C：遅れ3日/余裕6日、D：遅れ0日/余裕0日。回復策を最優先で検討すべき作業はどれか。

ア．A。

イ．作業B。

ウ．C。

エ．D。

答え・解説 正答：イ

ア：余裕5日。

イ：1日遅れでも全体余裕0日のクリティカル作業で工期全体に直結する。

ウ：余裕6日。

エ：現時点で遅れなし。

総合解説：遅延日数だけでなくフロートを同時に読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

舗装区間Aは締固め標準/沈下なし、Bは締固め少/沈下あり、Cは標準/なし、Dは少/あり。最優先で検証すべき仮説はどれか。

- ア．沈下は締固めと無関係と断定。
- イ．区間名が原因。
- ウ．締固め不足と沈下の関係を追加データで確認する。
- エ．沈下記録を削除。

答え・解説 正答：ウ

- ア：表の傾向と矛盾。
 - イ：因果関係なし。
 - ウ：締固め回数が少ない区間で沈下が共通するため有力な仮説。
 - エ：原因分析にならない。
- 総合解説：相関傾向を読んでも因果を即断せず、材料・含水・地盤等を追加確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

工事項目 市道上に仮囲い、 片側通行の交通規制、 河川区域内に仮設足場。必要手続の整理として最も適切なのはどれか。

- ア． 道路占用、 道路使用、 河川法上の許可の要否をそれぞれ確認する。
- イ． 全て道路使用許可だけ。
- ウ． 全て道路管理者だけへ申請。
- エ． 工事契約があれば行政許可不要。

答え・解説 正答：ア

- ア：行為ごとに根拠法と許可主体が異なる。
 - イ：占用・河川をカバーしない。
 - ウ：警察・河川管理者も関係。
 - エ：契約と許可は別。
- 総合解説：場所・行為・管理者を対応させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

『法令条件』『設計図書の要求』『現場で選択可能な施工方法』が混在する。最も適切な整理方法はどれか。

- ア．全て同じ重要度で無作為に決める。
- イ．変更可否と優先順位を分け、法令・契約上必須の条件を先に固定して施工方法を検討する。
- ウ．施工しやすさを優先し法令は後で合わせる。
- エ．設計図書を無視する。

答え・解説 正答：イ

- ア：必須条件を見落とす。
 - イ：必須制約と選択可能条件を分ける。
 - ウ：違法のおそれ。
 - エ：契約要求を満たさない。
- 総合解説：まず変えられない条件と調整可能な条件を分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

監理技術者の要否判定に最も直接必要な情報の組合せはどれか。

- ア．天気、作業員年齢、植栽樹種。
- イ．元請かどうか、工事業種、下請契約総額。
- ウ．現場面積、騒音値、舗装厚。
- エ．工期、WBGT、写真枚数。

答え・解説 正答：イ

- ア：直接条件でない。
 - イ：監理技術者判定の直接条件である。
 - ウ：直接条件でない。
 - エ：主要判定条件でない。
- 総合解説：設問の結論に直接関係する条件を抽出する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

高所作業開始前に強風、足場の一部不具合、作業員不足が同時に判明した。最も適切な判断はどれか。

ア．一つずつ無視して開始する。

イ．工期遅れなら安全条件を緩和。

ウ．作業開始条件を満たしていないため中止し、各条件を是正してから再評価する。

エ．足場だけ直せばよい。

答え・解説 正答：ウ

ア：複合リスクが高い。

イ：不可。

ウ：複数の安全条件が未達。

エ：他条件が残る。

総合解説：必要な安全条件が全て満たされているかで作業可否を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

舗装沈下について『路盤締固め不足が原因だと思う』という意見が出た。最も適切な条件整理はどれか。

ア．沈下位置、施工・締固め記録、材料、排水状況を確認し、事実と仮説を分けて原因を検証する。

イ．経験者の推測だけで確定。

ウ．沈下量だけ測る。

エ．原因調査せず表層補修。

答え・解説 正答：ア

ア：原因断定前に客観的事実を集める。

イ：他原因を見落とす。

ウ：情報不足。

エ：再発のおそれ。

総合解説：確認済み事実・未確認情報・仮説を区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

照明配管→園路舗装→植栽の順で施工する区域で配管が遅れている。最も適切な整理はどれか。
ア．舗装を先に完成し後で全面掘削。
イ．植栽を配管ルート上へ先行。
ウ．配管業者だけの問題として全体を見直さない。
エ．配管遅延の後続影響を確認し、先行可能な別区域や工程調整を検討する。

答え・解説 正答：エ

ア：大きな手戻り。
イ：干渉増。
ウ：後続へ影響。
エ：前後関係を整理し波及影響と代替作業を評価する。
総合解説：前後関係、干渉、代替作業、クリティカル性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

道路上作業で『作業可能9～16時』『歩行者通路幅確保』『資材の夜間残置禁止』という許可条件がある。最も適切な工程計画はどれか。
ア．遅れたら17時以降も無断作業。
イ．許可条件を固定制約として工程・搬入・撤去計画へ反映し、条件内で施工量を設定する。
ウ．搬入時は歩行者通路を閉鎖。
エ．許可条件は参考なので施工者が変更。

答え・解説 正答：イ

ア：条件違反。
イ：行政許可条件を守る前提で施工方法を調整する。
ウ：条件違反。
エ：不可。
総合解説：自由に変えられない許可条件を先に固定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

夏季の植栽工事で『高温』『乾燥』『搬入後すぐ植えられない』『灌水設備使用可能』という条件がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．一度に全量搬入し根鉢を乾燥させる。
- イ．搬入量と植付け可能量を調整し、仮置き時の乾燥防止と植付け後の灌水を計画する。
- ウ．灌水設備を使わない。
- エ．直射日光下へ放置する。

答え・解説 正答：イ

ア：活着不良。
イ：植物材料の乾燥ストレスを抑える条件整理。
ウ：高温乾燥で不適切。
エ：乾燥を増やす。
総合解説：植物特性、気象、工程、設備を同時に整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

園路幅員の軽微な規格外、吊荷下への作業員立入り、翌週の資材遅延、写真整理遅れが同時に判明。最優先で是正すべきものはどれか。

- ア．園路幅員。
- イ．資材遅延。
- ウ．写真整理。
- エ．吊荷下への作業員立入り。

答え・解説 正答：エ

ア：是正必要だが緊急性は低い。
イ：工程影響だが即時人命リスクより後。
ウ：記録より重大危険を先に止める。
エ：人命に直結する重大な即時リスク。
総合解説：安全・法令・品質・工程の緊急性を比較して優先順位を付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

設計変更で園路線形が河川側へ3m移動した。最も適切な条件整理はどれか。

- ア．平面図だけ修正する。
- イ．施工班へ口頭だけで伝える。
- ウ．工期不変なら法令確認不要。
- エ．測量・出来形だけでなく、河川区域、既存樹木、地下埋設物、排水、工程、必要許可への影響を再確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：他条件変化を見落とす。
 - イ：正式更新が必要。
 - ウ：区域変更で許可要否が変わる。
 - エ：位置変更が法令・品質・安全・工程へ波及する。
- 総合解説：変更事項の波及を管理分野横断で一覧化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

作業中に足場の手すりが外れていることを発見した。最も適切な現場判断はどれか。

- ア．該当高所作業を止め、立入を制限して手すりを復旧・確認後に再開する。
- イ．注意だけして続ける。
- ウ．昼休みまで続ける。
- エ．完成時に補修する。

答え・解説 正答：ア

- ア：墜落防止設備の不具合は即時危険。
 - イ：危険が残る。
 - ウ：危険放置。
 - エ：即時是正が必要。
- 総合解説：重大危険は停止・隔離・是正・再確認を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

搬入樹木の一部が設計指定樹種と異なる。最も適切な対応はどれか。

ア．似た樹種なので植える。

イ．他樹木と混ぜる。

ウ．該当材料を識別・隔離し、設計図書と発注者指示を確認して使用可否を決定する。

エ．植付け後に報告する。

答え・解説 正答：ウ

ア：勝手に許容不可。

イ：隠蔽。

ウ：誤使用防止のため使用前に不適合処置を行う。

エ：使用前に判断。

総合解説：不適合は識別・隔離・処置決定・再確認の順で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

供用中公園の仮囲いが一部倒れ、歩行者が工事区域へ入れる。最も適切な対応はどれか。

ア．声掛けだけで続ける。

イ．作業を止めて立入を防止し、安全な迂回動線を確保して仮囲いを復旧する。

ウ．工事区域を近道として開放。

エ．閉園まで放置。

答え・解説 正答：イ

ア：物理対策が必要。

イ：第三者立入りを防ぐ緊急措置を優先する。

ウ：接触リスク。

エ：即時対策が必要。

総合解説：危険区域の隔離、案内、迂回を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

工程が3日遅れ、土壌改良を省略すれば追いつけるが、土壌試験では改良が必要。最も適切な判断はどれか。

- ア．土壌改良を省略。
- イ．土壌改良を省略せず、工程組替えや要員・施工区画見直しで回復策を検討する。
- ウ．試験結果を削除。
- エ．枯れた後だけ改良。

答え・解説 正答：イ

- ア：品質未達。
- イ：品質要求を犠牲にした工程回復は不適切。
- ウ：不正。
- エ：既知の不良を放置。

総合解説：必須品質条件は維持し、施工順序・資源配分で回復する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

翌日から道路上に仮設物を設置予定だが、道路占用許可の取得状況が確認できない。最も適切な判断はどれか。

- ア．先に設置し後から許可。
- イ．道路使用許可があれば占用確認不要。
- ウ．許可の有無と条件を確認できるまで該当作業を開始せず、工程を調整する。
- エ．仮設物は常に許可不要。

答え・解説 正答：ウ

- ア：無許可のおそれ。
- イ：別制度。
- ウ：工程都合で必要な行政許可を省略できない。
- エ：条件により必要。

総合解説：適法性を確保した上で工程を再調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

前夜の豪雨後、朝は晴天。掘削部・法面を含む工事の再開判断として最も適切なのはどれか。

ア．雨が止めば即再開。

イ．遅延時は点検を半分にする。

ウ．法面だけ確認する。

エ．地盤、法面、土止め、排水、仮設電気、重機走行路等を点検し、安全確認後に再開する。

答え・解説 正答：エ

ア：地盤緩み等を見落とす。

イ：安全確認を省略不可。

ウ：他設備も影響。

エ：天候回復だけでなく残留危険を確認する。

総合解説：異常気象後は複数の設備・地盤条件を体系的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

既存大径木の根系範囲と新設園路の掘削範囲が重なると判明した。最も適切な対応はどれか。

ア．設計通り根を切断する。

イ．根系への影響を評価し、線形・掘削方法・基礎構造等の変更を関係者と検討する。

ウ．園路を独断で中止する。

エ．根系を舗装で完全被覆する。

答え・解説 正答：イ

ア：樹勢低下・倒木リスク。

イ：既存樹木保全と施設機能を調整する。

ウ：正式協議が必要。

エ：根系環境悪化のおそれ。

総合解説：造園では既存樹木、施設、安全、変更手続を一体で調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

吊荷下に作業員、 施工体系図未記載の下請会社、 園路出来形に軽微不適合を同時確認。最も適切な初動はどれか。

- ア．出来形測定を最優先し揚重継続。
- イ．まず揚重作業を停止して吊荷下立入りを解消し、その後施工体制の適法性確認と出来形是正を行う。
- ウ．体系図だけ直し契約関係は見ない。
- エ．完成時にまとめて対応。

答え・解説 正答：イ

- ア：重大危険を放置。
 - イ：即時の人命危険を最優先し、次に法令・品質問題を是正する。
 - ウ：書類修正だけでは不足。
 - エ：即時是正が必要。
- 総合解説：複合不具合は緊急性と重大性で優先順位を付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

重機と第三者の接触事故が発生した。負傷者対応後の現場管理として最も適切なのはどれか。

- ア．現場状況・作業計画・誘導體制・記録を保全して原因分析し、再発防止策を講じてから再開する。
- イ．現場をすぐ元どおりにし記録しない。
- ウ．個人の不注意だけを原因とする。
- エ．同じ方法ですぐ再開。

答え・解説 正答：ア

- ア：証拠に基づく原因分析と原因対応策が必要。
 - イ：情報を失う。
 - ウ：背景要因を見落とす。
 - エ：再発防止がない。
- 総合解説：救護後は事実保全、原因分析、対策、効果確認まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21